

模擬症例電子カルテを用いた疾病・薬物治療教育  
A Computer-based Electric Medical Record Linked with Medical Information  
Databases for Pharmacotherapy Education of Clinical Pharmacy

越前 宏俊

Hirotooshi Echizen

薬物治療学教室

E-Mail:echizen@my-pharm.ac.jp

### 1. 電子カルテシステムの歴史

電子カルテシステムは診療支援ツールとして 50 年ほど前から開発されていたが、特に約 10 年前からコンピューターの情報処理能力の飛躍的な向上と記憶媒体の容量増加により安価で汎用性の高いシステムが構築されるようになったことから臨床の場での使用が広がっている。電子カルテシステムは、医療行為や治療成績の収集や解析が容易に行えることから、医療経済学や医療の質研究を通じて医療行政の改善に大きく改善すると期待されている。

日本でも厚生労働省が 2006 年までに中規模病院の 40%に普及させるとの意気込みで医療に電子カルテシステムを導入することを推進している。このため、本学の学生が臨床実習を行っている多くの病院でも採用されており、6 年制の長期実務実習では学生が研修中に接する機会も多いと考えられる。

しかし、電子カルテシステムでは患者の個人情報管理が従来の紙ベースの診療記録よりも格段に厳しくなるため、学生が病院で実習中に疾病や薬物治療の内容を学習しようとしても容易に診療録の記載内容にはアクセスできず、十分な臨床実習の成果を得られない状況も発生することが危惧される。

そこで、本学では文部科学省助成事業である医療人 GP 助成により、学生が臨床実習前および実施中に大学をグループあるいは個人学習が可能な模擬症例データを格納した電子カルテシステムを構築した。

### 2. 電子カルテシステムの概要

本システムは NEC が病院での電子カルテとして開発した MegaOak®を薬学生の教育用にカスタマイズしたものである。システム内容は学内に設置したサーバに利用者が端末 PC から IE ブラウザを用いてアクセスする web ベースのシステムで、電子カルテ本体には模擬症例データと臨床検査値が入力されている。また、模擬症例の処方薬物に対して、服薬指導支援システムが連動しているため、患者の薬物治療に対して学生が服薬指導する演習も可能となっている。さらに、このシステムでは電子カルテの操作アイコンから学内 LAN 上の医薬品情報データベース (Drugdex®)、医療統計ソフト SPSS®、今日の治療の診療プレミアムの 12 種の電子ブックにリンクできる。したがって、本システムは個人情報保護の観点からの問題が回避された環境で、学生に薬物治療の学習を臨場感のあるカルテ記載と臨床検査を閲覧しながら可能にするだけでなく、ブラウザを介して広大な医薬品情報、疾病情報などにアクセスし理解を深める事ができる教育ツールであると期待される。4 年次の症例解析演習や 5 年次の特別コース実施中の学内ゼミ、6 年次のコース別特論演習などに利用すると学習効果が上がるものと期待される。